

## ■北海学園大が快勝。3年ぶりの春季オープン戦開幕

北海道学生アメリカンフットボール連盟加盟校の春季オープン戦が6月12日、札幌市清田区の北海学園清田グラウンドで始まった。新型コロナウイルス対策のために2020年、21年はオープン戦が中止されており、この時期に道内でアメフトが行われるのは3年ぶり。開幕戦の北海学園大―帯広畜産大戦は、攻撃力に勝る北海学園大がQB河合祐輔（4年、札幌第一高）の3本のTDパスなど5TDとFG、セーフティーで得点を重ね、46―0で勝利した。第2日の19日は江別市の札幌学院大グラウンドで、北星学園大と札幌学院大の合同チームが東京農業大と対戦する。キックオフは午後1時。

北海学園大は第2Q6分、DB/K野崎蒼（4年、札幌手稲高）の27ヤードFGで先制。前半残り1分に野崎のインターセプトで再び攻撃権を得ると、敵陣11ヤードからの攻撃で昨年の道学生選手権MVPのQB河合がWR寺川隆吾（4年、北海高）へパスをヒット。寺川が好走でエンドゾーンに飛び込み、10―0で折り返した。



第3Qは北海学園大の3人のQBがTD劇を演出した。最初の攻撃シリーズでRB高杉武生（2年、浦河高）の好走でボールを進めると、3分にQB河合の4ヤードキープでTD。続く自陣7ヤードからの攻撃ではQB小笠原丈瑠（4年、北海高）が自らのランとショートパスで前進し、最後はRB丸川祐生（4年、北海高）の5ヤードTDラン。第3Q終了間際にはQB篠原浩大（3年、札幌北陵高）がWR寺川へ20ヤードTDパスを鮮やかに決めた。

第4Qには最初のプレーでファンブルリカバーして攻撃権を得ると、QB河合からWR野本了輔（3年、札幌大谷高）へ5ヤードのTDパス。続く帯広畜産大の攻撃でも相手ミスからセーフティー、5分にはQB河合がWR野本へ2本目のTDパスを放ち、リードを広げた。



帯広畜産大は第2Q、自陣28ヤードからの攻撃シリーズで、QB外崎智文（2年、大野農業高）がWR松田愉慎（4年、帯広三条高）へ連続でパスを通し、RB石村周也（2年、札幌清田高）のランで攻め込んだが、敵陣25ヤードからTDを狙ったパスをインターセプトされて好機を逃した。攻守兼任のOL/DL相沢秀輔（4年、帯広柏葉高）、OL/DL西龍一郎（3年、京都・桃山高）らがロスタックルを決め、DBも兼ねる松田がインターセプトする粘りを見せたが、後半にミスが相次ぎ、反撃はならなかった。

北海学園大の高木幸樹ヘッドコーチは「試合を出来たことが最大の収穫。2人の4年生QBは相手に応じて使い分けたい。（7月10日の）北大戦もやることは同じ。パス、ランともいける」と手ごたえを強調。伝統のパス攻撃を引っ張るWR寺川は「今季初めての試合で緊張があった。2TDキャッチもまだまだ。今日のミスを練習でカバーして北大戦に備えたい」と決意した。

この日がQBデビュー戦の帯広畜産大の外崎は「パスが続けて決まったが、最後に緊張で球が浮き、インターセプトされた。相手DEのラッシュにあせった。秋に向け、自分たちの完成度を高めたい」と巻き返しを誓っていた。